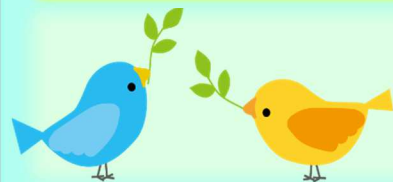


国立大学法人化から13年過ぎて...

問題いまだ解決せず、新たな次元へ、



すべての教職員の権利を尊重する方針を もって問題に取り組むことを望む

けやき



No. 602 (1)

2017.9.6

京大職組
文学部支部

新支部長あいさつ

小山 哲

このたび二〇一七年度前半（十二月まで）の文学部支部の支部長をおおせつかることになりました。本年度の後半（来年一月から）は、中畑正志先生が支部長を担当されることになっています。

私は支部長になるのは二回目で、前回は二〇〇四年度の後半（二〇〇五年一月～六月）のことでした。ちょうど国立大学が法人化されて最初の年度末を迎えるタイミングで、事務職員も教員も例年以上に緊張して、あわただしい雰囲気だったように記憶しています。

それから十三年が過ぎ、当初はなんとも奇妙に響いた「国立大学法人京都大学」という名称にも慣れてしまい、あまり違和感を覚えなくなりました。しかし、当時の私が支部長として『けやき』に書いた「あいさつ」を読み返してみても、そのときに話題となっていた「運営費交付金の削減」によるマイナスの影響や「非常勤職員の雇用や待遇の格差」がその後もほとんど解決されず、依然として教職員組合が取り組むべき課題であり続けているだけでなく、問題の深刻さという点で新たな次元に入りつつあるという印象をもちます。



「軍事研究」問題の 背景の一つとして、 日本の研究予算削減が

昨年度から文学部支部でも取り組んできた「軍事研究」問題の背景の一つとして、運営費交付金の削減にともなって、大学における基礎的な学術研究のための恒常的な予算が大幅に削られている現状があることは、すでに指摘されているとおりです。日本の研究予算削減がもたらすマイナスの効果は、八月十四日付の『ネイチャー』誌の記事でもとりあげられています。

【参考1】

「雇い止め」は京都大学だ けの問題ではなく、日本 中の大学で同様の状況が



非常勤講師
雇用争議 和解



東大
労働基準法違反も視野に

さらに、教職員組合が今年度取り組むべき最重要の課題として、時間雇用職員の五年雇い止めの問題があります。非常勤教職員の「雇い止め」は京都大学だけの問題ではなく、日本中の大学で同様の状況が生じています。早稲田大学では、非常勤講師の雇用打ち切りをめぐる四年間にわたる組合の争議の結果、今年の春、和解が成立しました。東京大学では、この八月に行われた団体交渉で合意に至らず、教職員組合は東京労働局への指導申し入れや労働基準法違反による刑事告発も視野に入れているようです。【参考2】



文学研究科・文学部の研究・教育環境の水準を維持し、向上させるうえで、時間雇用職員は、多大な貢献をしてこられました。その経験の蓄積は、わたしたち全員にとって、何ものにも代えがたい財産であると思います。京都大学が、現在雇用されているすべての教職員の権利を尊重する方針をもって問題に取り組むことを強く希望します。

直面する問題の大きさに比べて支部長としての私はあまりにも非力ですが、みなさんに助言をいただきながら、務めさせていただく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

(参考1) "Budget cuts fuel frustration among Japan's academics", *Nature*, 14 August 2017.

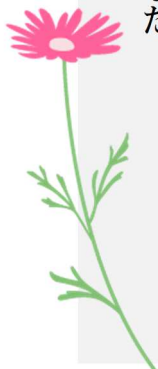
(参考2) 田中圭太郎「東京大学で起こった、非常勤職員の「雇い止め争議」その内幕」『現代ビジネス』

新支部委員 研究科長&事務長にご挨拶

二〇一七年度新支部委員会発足に際して、支部委員会では、平田昌司研究科長・井本憲事務長へ挨拶会見を申し入れ、七月三十一日の昼休みに支部委員会メンバー十一名の出席で行われました。はじめに小山新支部長の挨拶と支部委員会メンバーの紹介を受けて、平田研究科長からは「平素は文学部のために、組合の皆さんにもお世話になっていきます。いい大学、いい文学部にしたいという思いは同じだと思います。皆さんの力なくしては、やっていけないのでよろしく願いしたい」、事務長からは「職場の声をよく聞き、職場の環境を守り働きやすくしたい」との、返答を頂きました。

今年度は特に、軍事研究の問題や時間雇用職員の五年を超えての雇用継続要求等が予想されることから、情報を公開や要求を聞く場を持つてほしいと要望しました。研究科長と事務長からは、できる限り風通しのいい状況にしたいとの返答がありました。

最後に、小山支部長より、文学部所属の職員と同様に文系共通事務部についても問題があった場合には、話し合いの場を持つていただくこと、組合との長年の信頼を維持して、良好な関係を今後も築いて行きたいとお願いしました。



2017年度支部委員の役割を紹介します



お力添えを
お願いします

支部長	7-12月	小山 哲	非常勤	似内 奏子
	1-6月	中畑 正志		内山 榮美
副支部長		杉山 卓史	文化交流・親睦	今野 創祐
事務支部員代表		坂田 綾子		内山 榮美
会計		似内 奏子		似内 奏子
図書館部会		藤山 優美	Mail連絡	岡本 由美子
機関紙	坂田 綾子		選挙管理委員	今野 創祐
	岡本 由美子		ビラ配布	事務職員全員

情報検索ごばれ話 ② 今野創祐 図書館とクラウドファンディング



近年、クラウドファンディングという資金調達の手法が注目されている。インターネット等を通じて不特定多数の人から資金の出資や協力を募り、製品・サービスの開発、もしくはアイデアの実現などの目的を果たすという手法だ。近頃は図書館においてもこの手法を用いて資金を調達するケースがある。例えば雑誌の図書館として知られる大宅壮一文庫は二〇一七年五月十八日から六月三十日までの間にこの手法で約八五四万円を集めた。国立大学の図書館においても同様の手法をとるケースがある。筑波大学附属図書館では二〇一七年一月二十六日から三月三十一日にかけてこの手法で約五一二万円を集めた。これらの資金調達の目的であるが、大宅壮一文庫の場合は組織運営全般の円滑化、筑波大学の場合は中央図書館および専門図書館の資料の購入を挙げている。京都大学文学研究科図書館においては、直面する課題として、書庫の狭隘化がある。同様にクラウドファンディングでお金を集めて新しい書庫を建てることはできないだろうか、と夢想することはあるが、さすがに書庫を増築するほどのお金を集めるのは無理か。